

京芸通信 vol. 32

まちに開かれた
テラスのような大学へ



京都芸大の近況

盛大なファンファーレとともに 新施設の見学会も 移転オープニングセレモニーを開催

2023年10月1日、本学の移転を記念し、新キャンパス内の堀場信吉記念ホールにおいて京都市との共催により「京都市立芸術大学・美術工芸高等学校移転オープニングセレモニー」を開催しました。



赤松玉女学長

約600名の方々をお招きしたセレモニーは、音楽学部の学生によるポール・デュカスのバレエ音楽《ラ・ペリ》のファンファーレとともに開式し、主催者である門川大作京都市長及び本学理事長・学長の赤松玉女から挨拶が述べられました。続いて、彬子女王殿下のおことば、西脇隆俊京都府知事をはじめ来賓の皆様からのご祝辞を賜り、都倉俊一文化庁長官からのメッセージ動画も上映されました。

その後、記念演奏として、本学非常勤講師の栗辻聡氏の指揮により、音楽学部及び大学院音楽研究科の学生がモーツァルト《ディヴェルティメント Kv.136》より第1楽章、

チャイコフスキー《弦楽セレナーデ》より第2楽章と第4楽章をそれぞれ披露した後、前理事長・学長である鷲田清一名誉教授から記念祝辞を頂戴しました。

キャンパスの南北を貫く通称「芸大通」では、主催者及び来賓によるテープカットが



芸大通

New Campus

新しい価値観を示す
個性あふれる「創造の現場」



京都市立芸術大学は、未来に向けた新たな大学像を「TERRACE」と定めました。まさに開かれたテラスは、地域の歴史や文化と緩やかにつながりながら新たな「創造の現場」となり、さまざまな人々や機関との交流を通して、その刺激や情報を教員や学生が作品や演奏、研究に昇華させていく。そんな活発な芸術の拠点になります。



音楽学部及び大学院音楽研究科の学生による記念演奏

行われ、地元崇仁地域から、崇仁子ども御囃子会による御囃子の披露と森本弘義崇仁自治連合会会長によるご挨拶をいただき、閉式となりました。

その後、式典会場となった堀場信吉記念ホールをはじめ、笠原記念アンサンブルホール、ギャラリー@KCUA、伊藤記念図書館、アートスペース K.Kaneshiro など、キャンパス内の各所をご来学いただいた皆様にご覧いただきました。



京都市立芸術大学・美術工芸高等学校移転オープニングセレモニー
令和5年10月1日(日)



Access

新住所

〒600-8601
京都府京都市下京区下之町57-1

交通案内

JR/近鉄/地下鉄京都駅 徒歩6分
京阪七条駅 徒歩10分
「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」
バス停下車すぐ



本学に新たに誕生した音楽ホールのこけら落とし公演 「オーケストラ協演のタベ」

2023年11月2日、新キャンパスA棟の堀場信吉記念ホールこけら落とし公演「オーケストラ協演のタベ」を開催しました。ほぼ満席となった本公演では、各専攻の成績優秀者がソリストとして真新しいホールに演奏を響かせました。初めて一般に公開したホールでの演奏会をたくさんの方にお楽しみいただきました。

M.ラヴェルのピアノ協奏曲ト長調 では、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション様からご寄付いただいたピアノ（スタインウェイ&サンズ社製フルコンサートグランドピアノモデルD-274）をお披露目しました。（→P.11）

HORIBA Shinkichi Memorial Hall

堀場信吉記念ホール

堀場信吉記念ホールは、音楽学部の前身である京都市立音楽短期大学の初代学長として、4期13年にわたり音楽教育の発展に大きく貢献された堀場信吉氏の功績を称え、命名されました。

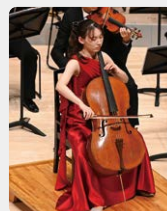


演目 Program

- G. ロッシーニ／オペラ《どろぼうかさぎ》より 序曲
- G. ヴェルディ／オペラ《運命の力》より〈憐れみの聖母〉
- A. ドヴォルザーク／オペラ《ルサルカ》より〈月に寄せる歌〉
- G. ヴェルディ／オペラ《シチリア島の夕べの祈り》より
〈ありがとう、愛する友よ〉
- M. ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調
- E.W. コルンゴルト／チェロ協奏曲 八長調 作品37

出演者 Cast

- 指揮：阪 哲朗（音楽学部教授）
- 福澤 佑樹（指揮専攻4回生）
- ソリスト：ピアノ 中村 梨乃（ピアノ専攻4回生）
- チェロ 井上 帆乃香（弦楽専攻4回生）
- ソプラノ 碓井 莉子（声楽専攻4回生）
- 管弦楽：京都市立芸術大学 音楽学部・大学院管弦楽団





撮影：市川靖史

ギャラリー@KCUA

ギャラリー@KCUA（通称「アクア」）では、学芸スタッフの企画による特別展や、本学の研究成果発表展ならびに教員・在学生・卒業生による企画展などの展覧会を開催するほか、国内外で活躍するアーティストを講師に迎えた若手アーティスト対象のワークショップやレクチャーなど、展覧会だけにとどまらず多岐にわたる活動を実施しています。

大学ならではの実験的な活動を一一般公開する場として、すべての展覧会は入場無料でご鑑賞いただけます。



撮影：来田猛

学長室壁画引越しプロジェクト(第2期) 「still moving final: うつしのまなざし」



撮影：来田猛

2023年10月3日から11月12日まで、新キャンパスC棟1階のギャラリー @KCUA および芸術資料館の共通エントランスにおいて、「still moving final: うつしのまなざし」を開催しました。このプロジェクトは、沓掛キャンパス学長室の壁画を新キャンパスへと「引越し」させ、大学の機能とともに膨大な数の芸術資源が一斉に移動するなか、元来その場所に合せて制作される壁画が、移動によってその意味をどのように変化させるのかを考察するものです。

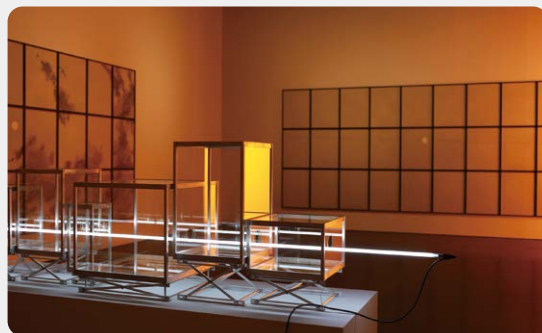
この壁画は、2015年度に当時の本学関係者の協力のもと、美術家の川田知志によって制作されました。制作から7年余りを経て、フレスコ画の移設技法であるストラッポを用いて壁面から描画層のみを引き剥がし、移動可能な状態にしたのち、新キャンパスへと運び込み、プロジェクトの記録映像とともに展示を行いました。展示終了後も、学内への設置に向けてプロジェクトは継続中です。



撮影：来田猛

記念すべき移転後最初の展覧会 久門剛史「Dear Future Person, 」

2010年より拠点としていた堀川御池を離れ、本学新キャンパス内で活動を開始したギャラリー@KCUAの記念すべき最初の展覧会として、本学卒業生で気鋭の美術家、久門剛史氏による個展を2023年12月16日から2024年2月18日まで開催しています。久門氏にとって京都での初個展である本展では、新しいギャラリー @KCUAの展示室に合わせて構成された、唯一無二の大規模なインスタレーションが展開されています。



ジャミール・アーツ・センター(ドバイ)での展示風景 | 2023年 | サイズ可変 |
撮影：久門剛史

Resume | 2020年 | ラウン、
ラウン合板、蛍光アクリル
絵の具、自然光、他 | 展覧
会 “メルセデス・ベンツ アー
ト・スコープ 2018-2020”
原美術館での展示(東京) |
サイズ可変 |
撮影：木奥恵三



らせんの練習 | 2019年 | 劇
場作品(50分) | KYOTO
EXPERIMENT 2019 |
撮影：来田猛



アールスペース K.Kaneshiro 第1回企画展

「骨董のある生活」を開催

金城一守氏が収集したさまざまなコレクションの作品を、金城氏のエッセイ「骨董のある生活」を元に、氏の収集の歩みに沿いながらご紹介しています。

かつて「好古癖」と呼ばれた骨董の収集は、近代の文学者によって自身の美意識の表明という表現活動となりました。それぞれの眼力を競い合うような文学者の交流は、さながら現代のSNSの如く盛んになり、影響力のある者は多くのフォロワーを生みました。

文学青年であった金城氏は若くして骨董と出会い、その後事業に成功して貴重な資料や美術品を収集します。また古今東西の細かな工芸品の数々もまた愛着のあるものでした。こうした品々を手元に置き、好きな時に好きなだけ触れることは、遊びでもあり歴史や文学へのイマジネーションの糸口でもありました。アールスペース K.Kaneshiro に展示されるものは、そのほんのひとすくですが、一人のコレクターの夢の形としてお伝えするものです。



「骨董のある生活」
2024年3月8日（金）まで
開催中／入場無料

art space K.Kaneshiro

アールスペース K.Kaneshiro

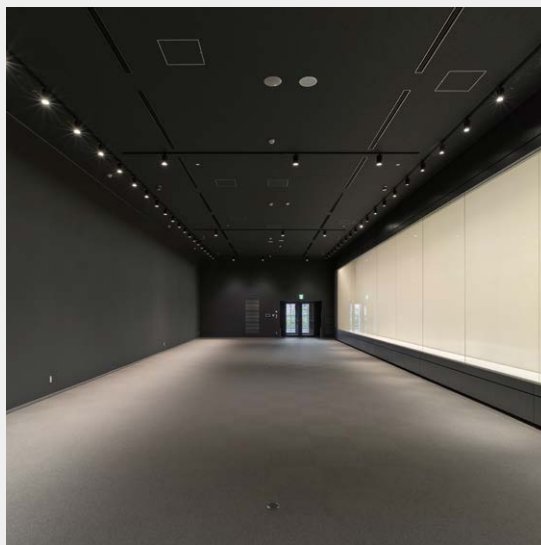
キャンパス移転にあたり、金城一守氏からご寄付をいただきました。C棟6階のアールスペースK.Kaneshiroは、そのご厚志に敬意を表するとともに、金城コレクションを活用し、学生と共に展示を構成して広く美術・工芸・歴史資料を紹介する場として、展覧ギャラリーを設けました。



2024年4月リニューアルオープンに向けて準備中！ 芸術資料館 展示室が新しくなります

C棟1階にあるギャラリー@KCUAと共通のエントランスからお入りいただける芸術資料館の展示室は現在、4月のリニューアルオープンに向けて準備中です。展示室では、これまで同様、年5回の企画展示を行い、京都と本学の歴史に根ざした調査研究活動を通じて、積極的に作品と関連資料の収集を行い、近世から現代に至る貴重な資料の保存機関として、社会への還元を進めます。

リニューアル第1弾の記念展として企画している「京都芸大〈はじめて〉物語」では、143年の歴史の中で生み出されてきた数々の〈はじめて〉を芸術資料館収蔵品を中心に、2024年4月から2025年2月までの1年間にわたり、4期に分けてご紹介する予定です。



Museum

芸術資料館

1991年に京都市立芸術大学に設置された大学博物館で、美術系博物館に分類されます。博物館法第29条による博物館相当施設の指定を受けており、本学の博物館実習の受入施設となっています。

所蔵品は、学生の卒業作品と旧教員の作品及び美術工芸に関する参考資料で、1880年に開校した京都府画学校以来143年の歴史を受け継ぎ、写生や粉本を含めた総数は4千点に上ります。

学内での教育・研究活動はもとより、展示室での一般公開（入場無料）や、展覧会への貸出しなどによって、広く利用に供しています。

芸術資料館 収蔵品



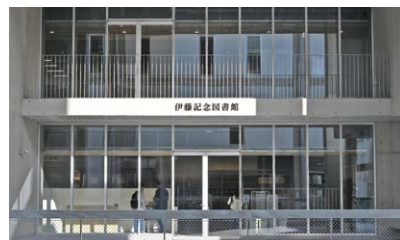
岡本神草「口紅」



古清水「色絵七宝透文手燈」

伊藤記念図書館

本図書館に名前を冠する伊藤謙介氏からは、環境整備及び図書資料等の充実のために多額の寄付をいただきました。ここには、読書を通じて人々の感性が豊かになり、京都市の文化芸術の基盤がより厚く、強くなってほしいとの思いが込められています。本学としてそのご厚志に敬意を表し、末永く顕彰するものです。



附属図書館がリニューアル

伊藤記念図書館がオープン

C棟3階に、本学の教育・研究に必要な図書・研究資料を収集、保存、管理し、教職員及び学生の利用に供することを目的として設置しています。蔵書は、芸術に関する専門的図書、雑誌を中心に約14万冊に及んでおり、小公文庫、長崎文庫、高山文庫など特色のあるコレクションも揃っています。

また、芸術の調査研究を目的とされる市民（京都市内に在住または通勤されている方）の利用にも供しています。

石橋義正教授が監督

映画「唄う六人の女」公開

美術学部構想設計専攻の石橋義正教授が監督・脚本・編集を手掛けた映画『唄う六人の女』が、2023年10月27日から全国の映画館で公開されました*。「自然との共生」をテーマとした今作について、石橋教授は、「どのように生きて自然を破壊してしまう人間が、なぜこの世に生まれてきたのか」という素朴な疑問に対する一つの答えであると語っています。また、映画制作に本学の卒業生が多く関わりましたが、映像を学ぶ学生に向けて「それぞれのシーンがどのように撮影されているのか、何度も見て考えて欲しい」とのコメントがありました。*現在は公開を終了しています。



©「唄う六人の女」製作委員会



「唄う六人の女」公式サイト
<https://www.six-singing-women.jp/>

Cafe Commons

カフェ・コモンズ

図書館の隣にあるコミュニティスペース

C棟3階の伊藤記念図書館前の広いテラスと空間がつながる形で開かれた交流スペースです。スペース奥には学際的な研究機関である芸術資源研究センター（*下記参照）があり、学生や教員が学部や専攻の垣根を越えて出入りし、気軽に意見を交わしたり、アイデアの共有の場として機能しています。休み時間には憩いの場にもなっており、図書館周辺はいつも賑わっています。



Archival Research Center

芸術資源研究センター（略称：芸資研）



文化芸術都市京都に受け継がれ、また新たに誕生する芸術作品や各種資料などを「芸術資源」として包括的に捉え直し、記録の保存・活用を意味するアーカイブの手法を取り入れ、新たな芸術創造を生み出すための調査・研究機関として、2014年4月に発足しました。

芸資研では、日常的に様々な作品や資料を生み出している芸術大学において、これからの芸術創造のための資源となりうるものを集めた「創造のためのアーカイブ」を育てています。本学の歴史の中で培われ、現在も生まれてつづける教育・研究の成果が、美術や音楽といった芸術の分野を越えて相互が出会うことにより、これまでにない新しい芸術が京都に生まれ、拓かれることを目指します。こうした本学独自の新しいアーカイブに基づく基礎研究を進めると同時に、本学の特色や土壌を活かした重点研究に取り組んでいます。

日本伝統音楽研究センター 特別国際ワークショップ 「APPROACH TO MASKED PLAY 仮面劇への誘い」

2023年10月23日から26日までの4日間、日本伝統音楽研究センター（※右記参照）では、特別国際ワークショップ「APPROACH TO MASKED PLAY 仮面劇への誘い」を開催しました。舞台演出家のギイ・フレイクス氏とアーティストのブルーノ・ボテラ氏を講師に招き、仮面劇及び仮面制作のワークショップを行いました。



仮面劇の体験

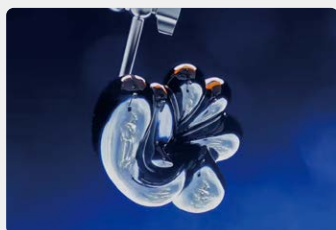


仮面の制作



完成した仮面でパフォーマンス

成層圏で輝く漆作品 宙漆プロジェクト



2023年10月4日、本学美術学部の卒業生や在学生などで構成する「宙漆プロジェクト」のメンバーである高岸航平さん（卒業生・メディアアーティスト

ト）、久保尚子さん（漆工専攻4回生）、大島美森さん（油画専攻3回生）、糟野日向子さん（漆工専攻2回生）と、同プロジェクト顧問の磯部洋明准教授の5名が赤松学長を訪問し、9月20日に漆作品を成層圏まで飛ばした成果を報告しました。このプロジェクトは、名古屋大学、名古屋工業大学、東京大学の工学部の皆さんと一緒に、漆作品を宇宙の入り口に当たる成層圏（高度約30km）までスペースバルーンで持ち上げて、その様子を記録する取組です。

音のない成層圏で、地球の光が映り込んだ漆作品は、地上では見ることのできない神秘的な輝きを放っていました。



Research Institute for
Japanese Traditional Music



日本伝統音楽研究センター（通称：でんおん、伝音センター）

日本の社会に根ざす伝統文化を音楽・芸能の面から総合的に研究することを目指し、2000年に開設されました。伝音センターは、1200年以上にわたって日本の文化創造の核となっている京都の特性を有効に生かし、国内外の研究者・研究機関・演奏家等と提携し、成果や情報を共有・交流する拠点機能の役割を果たすことによって、日本伝統音楽研究の核となることを目指しています。

RIJTM (Den-on) Library

伝
音
図
書
室

日本の伝統音楽に特化した もうひとつの図書館

A棟1階にある伝音図書室は、日本伝統音楽研究センター附属の図書室として、専門の研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧なども行っています。



＊利用できる方：本学の教職員（非常勤を含む）・学生、調査研究のために利用を必要とされる方

＊資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等

津崎実教授退任記念シンポジウム

「藝術 a. 科学」

2023年11月19日、昨年度末で音楽学部教授を退任した津崎実名誉教授の退任記念シンポジウム「藝術 a. 科学」を開催しました。

約100名の方にご来

場いただくとともに、YouTubeでの同時配信も実施したシン



ポジウムでは、津崎名誉教授の研究室で指導を受け、現在各教育機関の教員として従事されている研究者の皆様をはじめとする登壇者により、タイトルである「藝術 a. 科学」の「a.」（and, against, as など様々な可能性が考えられる）に

ついて、多面的な視点で意見が交換されました。また、京都大学大学院理学研究科の橋本幸士教授によるゲストトークでは、ご自身の研究と芸術との関わりを中心にお話いただきました。



地域との共生を目指して

「芸大祭 2023」テーマは《MOVE》

2023年11月4日から6日までの3日間、新キャンパスに移転して最初の芸大祭を開催しました。今年のテーマは「MOVE ~Make Our ビビッと Entertainment~」。

移転を機に、地域と共に活性化し、さらなる発展と進歩をしていきたいという学生たちの想いが込められています。移転から約1ヶ月という中での短い準備期間でしたが、学生たちは模擬店や企画展、コンサートやパフォーマンス等、ユニークで多様なイベントを用意し、新キャンパスを彩りました。たくさんのご来場ありがとうございました。



地域の方々との交流広場として

「崇仁テラス」の銘板をお披露目しました

新キャンパスへの移転に当たり多大なご協力をいただいた地元崇仁学区の皆様方へ感謝し、敬意を表するため、新キャンパス内に整備した地域との交流を行う広場を「崇仁テラス」と命名しました。これに伴い、2023年11月4日に崇仁テラスで実施された「崇仁文化祭」のオープニングイベントにおいて、森本弘義崇仁自治連合会長、山本亘下京区長のご臨席の下、西京区沓掛の旧キャンパスにあった御影石を利用して美術学部デザイン科の楠田雅史教授がデザインし、本学卒業生の西上翔平氏が制作した銘板をお披露目しました。

また、崇仁子どもお囃子会及び本学の教員・学生によるお囃子演奏があり、オープニングイベントを盛り上げました。



京都競馬場×京都市立芸術大学

「馬」をテーマにした展覧会を開催

2023年11月の毎週土曜日と日曜日、JRA京都競馬場のグランドオープンと本学の移転を記念し、京都競馬場において、本学とゆかりの深い、西野陽一氏・森村泰昌氏・八木明氏・山本容子氏による美術展「Au Passage 4人の個展ー競馬場のパサージュにて」が開催されました。開催初日となった11月4日には、作家全員が一堂に会し、それぞれの作品について解説しました。

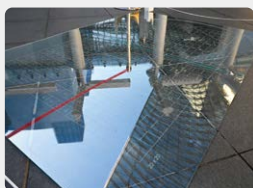
写真：福永一夫



新キャンパス最寄り駅で秋のイベント 京都駅ビル芸術祭

2023年11月22日から29日、本学の最寄り駅である京都駅ビル東広場において、「京都駅ビル芸術祭2023」を開催しました。美術学部・美術研究科の彫刻専攻、構想設計専攻の学生9名により、広場の環境を活かした個性豊かな作品を展示しました。土日には崇仁地域を拠点に制作活動を行う団体「きょうげいB-LABO」が出展し、地域住民の方から譲り受けた「八方ミシン」と呼ばれる靴修理専門の足踏みミシンを使ったワークショップや、地域の革素材で制作した小物の販売を行いました。

のべ2,000人以上の方にご来場いただき、学生の活動を身近に感じていただけるイベントとなりました。



移転記念にふさわしい演目を披露 第172回 定期演奏会

2023年12月2日に開催されたキャンパス移転後初めての定期演奏会では、本学で廣瀬量平氏の指導を受けた阪哲朗教授の指揮の下、廣瀬氏作曲の祝典序曲のほか、ベートーヴェン作曲の交響曲第5番「運命」を披露しました。また、阪教授自らがフォルテピアノを演奏したハイドン作曲のオラトリオ「天地創造」では、ソプラノ・老田裕子氏、テノール・清水徹太郎氏、バス・萩原寛明氏をお迎えし、オーケストラと壮麗なハーモニーを奏でました。学生たちの全身全霊のパフォーマンスをご来場いただいたお客様にお楽しみいただきました。



News

2023年11月26日放送

KBS 京都テレビの移転記念特番が
YouTubeでご覧いただけます！



京都市立芸術大学 新キャンパス移転特別番組「TERRACE
～京都のミライを照らす大学を目指して～」KBS 京都
https://www.youtube.com/watch?v=q715fxl_pUs

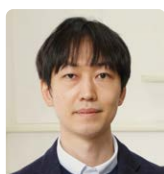
新任・退任のお知らせ

2023年度後期から2名の教員が着任しました。また、2023年度末、8名の教員が退任します。

● 新任教員



土井 亘 特任講師
総合デザイン専攻



戸澤 幸作 講師
共通教育

● 退任教員



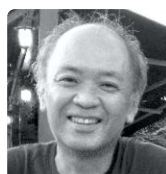
石原 友明 教授
油画専攻



重松 あゆみ 教授
陶磁器専攻



高橋 悟 教授
構想設計専攻



長谷川 直人 教授
陶磁器専攻



辰巳 明久 教授
総合デザイン専攻



大嶋 義実 教授
管・打楽専攻



藤本 英子 教授
デザインB専攻



小濱 妙美 教授
声楽専攻

日本伝統音楽研究センター第63回公開講座

雅楽の復元研究

—院政期における打楽器の奏法と演奏速度の考察—

日時 | 2024年1月21日(日) 14時～16時

会場 | 京都市立芸術大学 伝音セミナールーム

定員 | 40名(事前申込制)

受講料 | 1,000円(資料代含)

講演 | 根本千聡(日本伝統音楽研究センター特別研究員)

演奏 | 下宮弘聖(羯鼓)、熊井戸啓貴(太鼓)、五十嵐千絵(鉦鼓)、上坊有平(笛)、岡庭健(箏)、小島篤美(笙)



使用する雅楽器

近年広まりをみせている「昔の雅楽は演奏テンポが速かった」という説について、実際にはどれくらい速かった可能性があるのか、また「テンポが速い」とは音楽的にどのような意味を持つのか、打楽器の観点から考察します。

新キャンパスで初めての作品展

京都市立芸術大学作品展 2023

会期 | 2024年2月7日(水)～11日(日) 10時～18時

会場 | 京都市立芸術大学

本学の美術学部・大学院修士課程で学ぶ全学生の作品を展示する毎年恒例の作品展。絵画や工芸、映像、インスタレーションなど、多種多様な作品をご覧いただけます。



昨年度の様子(京都市京セラ美術館)

G.ヴェルディの『椿姫』をコンサート形式でお届け

第173回 定期演奏会 オペラティックコンサート

会期 | 2024年2月18日(日) 14時開演予定

会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

入場料 | 無料(事前申込制)

修士課程の声楽専攻生により、G.ヴェルディの不朽の名作『椿姫』をコンサート形式で上演します。音楽学部・音楽研究科の日頃の鍛錬の成果をお見逃しなく。



2021年のオペラガラコンサートの様子

2023年度卒業予定の成績優秀者による演奏会

第53回 卒業演奏会

日時 | 2024年3月20日(水・祝) 14時30分開演予定

会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

音楽学部各専攻の成績優秀者が、独奏、独唱、作曲作品を披露します。未来へ羽ばたく学生たちの演奏を、是非会場でお楽しみください。



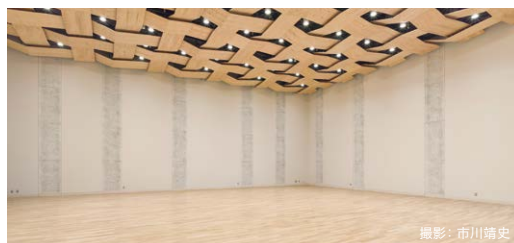
昨年度の様子

Kasahara Memorial Ensemble Hall

笠原記念アンサンブルホール

B棟地下1階にあり、合唱やオーケストラなど、主にクラス単位での実技授業のほか、演奏会にも対応するホールです。ホール名に名前を冠することとなった笠原健治氏は、株式会社MIXIの創始者で、本学音楽学部で35年の長きにわたり非常勤講師として後進の指導に当たられたピアニスト・笠原威子氏のご子息です。

威子氏を通じた本学との深いご縁と、芸術を学ぶ学生たちの環境整備のために多額のご寄付をいただいたため、本学としてそのご厚志に敬意を表し、末永く顕彰するものです。



撮影：市川靖史

笠原威子・純子 ピアノデュオ・コンサート

日時 | 2024年3月23日(土) 予定

会場 | 京都市立芸術大学 笠原記念アンサンブルホール

本学音楽学部で長きにわたり後進の指導に携わられたピアニスト・笠原威子氏とご息女の純子氏によるデュオコンサートです。



笠原健治様からのご寄付受納式にて

Kyoto Music Caravan 2023

京都市立芸術大学 新キャンパス スペシャル・コンサート

日時 | 2024年3月30日(土) 14時開演予定

会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

入場料 | 500円(チケット販売)

指揮 | 阪 哲朗(指揮専攻教授)

出演 | 音楽学部・音楽研究科有志、京都市立京都堀川音楽高等学校、京都市少年合唱団、京都子どもの音楽教室、京都市ジュニアオーケストラ有志ほか



阪哲朗教授

祝賀能〈翁〉付〈高砂〉

日時 | 2024年5月3日(金・祝)

開演時間未定

会場 | 京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

入場料 | 有料(チケット販売予定)

出演 | 金剛永謹(本学客員教授)、茂山千五郎、宝生欣哉 ほか



金剛永謹氏

移転整備募金

2020年12月から取組を開始しました移転整備募金につきましては、本年11月末日までに1,208件、約12億7千万円のご寄付を頂戴いたしました。多くの皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。

いただいたご寄付については、学生たちが使用する制作機器や楽器の購入をはじめとする教育研究環境の整備に充当し、大切にに使わせていただいております。



ガス窯(陶磁器専攻)



シャーリング(共有工房)

高額寄付をお寄せいただいた皆さま 2023年5月以降の実績

多額の寄付をご協力いただいた皆さまに感謝状を贈呈しています。

また、特段のご協力をお寄せいただいた方には、国の褒章制度のひとつである紺綬褒章(公益のために多額の私財を寄付された方に授与)を申請させていただいております。

◎ 感謝状贈呈先 ※五十音順

- 株式会社SGC 様
- 株式会社片岡製作所 様
- 株式会社京都銀行 様
- 京都信用金庫 様
- 京都中央信用金庫 様
- 久能 祐子 様
- 京阪ホールディングス株式会社 様
- Sky株式会社 様
- 住友電気工業株式会社 様
- 株式会社ダイセル 様
- 株式会社チャーム・ケア・コーポレーション 様
- 株式会社トーセ 様
- 株式会社ドルチェ楽器 様
- 三菱自動車工業株式会社 様
- 株式会社安井建築設計事務所 様
- Yamauchi-No.10 Family Office 様

◎ 紺綬褒章受章者



笠原健治様



宗次徳二様



鎌田正彦様



これまでにご寄付いただいた方のお名前を
大学ウェブサイトに掲載しております。
(公表の同意を得られた方のみ)

https://www.kcuu.ac.jp/contribution/itenseibokin/donor_2021/

ローム ミュージック ファンデーション様から ピアノの寄付を受納

2023年10月19日、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション様からご寄付いただいたピアノの受納式を堀場信吉記念ホールにおいて執り行いました。

受納式では、赤松学長から出井昭剛理事長に対して感謝状を贈呈し、音楽学部長でピアノ専攻の砂原悟教授が、感謝の気持ちを込めて、J. ブラームスの間奏曲 イ長調 作品118-2を演奏しました。

ご寄付いただいたピアノは、11月2日に同ホールのこけら落とし公演として開催した「オーケストラ協演のタベ」においてお披露目いたしました。



寄付物品
スタインウェイ&サンズ社製 フルコン
サート グランドピアノ/モデルD-274
(ドイツ・ハンブルグ工場製)



砂原悟教授による演奏



出井昭剛理事長

未来の芸術家支援 のれん百人衆

◎ 「未来の芸術家支援 のれん百人衆」について

京都芸大で学ぶ学生の教育環境の充実のため、京都の老舗企業の皆様を中心に支援の輪を広げ、息の長い厚いご支援を頂戴しております。「作品展」、「定期演奏会」、「卒業演奏会」(P.10)をはじめとする展覧会・演奏会にもご支援いただいております。



◎ 支援者のご紹介 ※五十音順 (2023年10月31日現在)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| ● 巖本 博 様 | ● 医療法人知音会 様 |
| ● 株式会社SGC 様 | ● 天ぶら園堂 様 |
| ● 株式会社大垣書店 様 | ● 株式会社トーセ 様 |
| ● 株式会社祇園辻利 様 | ● 戸塚 亮一 様 |
| ● 一般財団法人京都花鳥館 様 | ● 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金 様 |
| ● 京都信用金庫 様 | ● 畑 正高 様 |
| ● 京料理やまの 様 | ● 株式会社フラットエージェンシー 様 |
| ● 株式会社聖護院ハッ橋総本店 様 | ● 鷺田 清一 様 |
| ● 株式会社ゼロホールディングス 様 | ● 渡辺 孝史 様 |

「未来の芸術家支援 のれん百人衆」詳細はこちら
<https://www.kcuu.ac.jp/contribution/noren100/>



